

シリーズ第3回

愛する歌

2021年7月25日(日) 14:00 開演 會津稽古堂 多目的ホール

歌曲集『抒情小曲集』(1999年)より

ほんとに きれい

詩 C.ロセッティ/訳 吉田 映子

I. 歌曲集『愛する歌』(2010年)より

詩 やなせたかし

1. ひばり

2. 海と涙と私と

3. 誰かがちいさなベルをおす

4. 雪の街

5. ユレル

6. さびしいカシの木

▶新聞社の特派員として単身中国に渡った父親は現地で亡くなり、弟は養子に。母親にもまもなく再婚話が持ちあがり家族は散り散りに。5歳で独りぼっちとなり荒んだ精神状況になったにも関わらず、独り遠くの国へ行ってしまった父のこと、ずっと一緒にいたかった母のこと、そしてその寂しさに慣れてしまわなければ生きていけなかった自身の姿を、誰を恨むことなくほのぼのと回想します。

II. 歌曲集『黒田三郎の詩による三つの歌』(1999年)

1. もはやそれ以上

2. ある日ある時

3. ビヤホールで

▶ビアホールという都会の喧騒の中、見知らぬ人と肩を並べ無心にジョッキを傾ける。思わず怒鳴ってしまったことや、声をあげるべき時に黙りこんでしまったことを悔やんでみてもここでは誰も気に留めない。人付き合いが苦手な僕は、寂しさを感じながらも開放感に浸り心を別世界へと遊ばせます。眼に映る菜の花畑を舞う紋白蝶は、生きるのに不器用な自分の憧れなのです。

III. 歌曲集『C.ロセッティの4つの歌』(2000年)

1. 私が死んでも

訳 吉田 映子 / 内藤里永子

2. 夏

訳 中村 妙子

3. それはなに

訳 入江 直祐

4. もう一度の春

訳 岡田 忠軒

▶幼い時から病弱で、その人生のほとんどを家の中で過ごしたロセッティ。死をうたう詩人と呼ばれるほど死をモチーフにした作品が多いことでも知られます。終曲で4度繰り返される「もう一度春に会えたら」には諦めにも似た深い悲しみが感じられますが、「今日を生きよう、今日こそ楽しみ、そして歌おう」の一節には、悲しみの先にある命を燃やす炎、生への強い憧れが満ち溢れています。

【ごあいさつ】

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。『シリーズ第2回～いちばんすきなひとに』は残念ながら皆さまをお迎えすることが叶わず、昨年11月に無観客収録を行いました。(下記のQRコードからご覧いただけます)ご覧いただいた方から「新しい生活様式が強られる中とても元気をいただきました」と大変ありがたいお手紙を頂戴しました。「中止にせず無観客でも演奏してよかった」と私どもの方が逆に勇気づけられ、今年こそはホールで生の演奏をお聴きいただくよう練習を重ね本日を迎えた次第です。

本日のプログラムでは、「手のひらを太陽に」や「アンパンマン」の作者として知られるやなせたかしの人間愛に満ちた『愛する歌』、のちに妻となる少女との出会いを謳った恋愛詩の金字塔といわれる黒田三郎の『ひとりの女に』、そして19世紀イギリスを代表する女流詩人C.ロッセッティの自身の死生観を謳った詩に作曲した作品を取り上げます。作曲の木下牧子さんは時代や国が異なる三人の詩にまさに語るような旋律と複雑な和音を重ね、詩人と、私ども演奏者と、お聴きいただく皆さまを現代の新しい日本歌曲の世界へと誘います。ほんのひと時でも世の喧騒を忘れ、私どものうたにお寛ぎいただければ幸いです。本日はどうぞごゆっくりお楽しみください。

●『シリーズ第2回～いちばんすきなひとに』の演奏はQRコードを読みとるとご覧いただけます→



【プロフィール】



《作曲》 **木下 牧子** (きのした・まきこ) Composer / KINOSHITA Makiko

作曲家。東京生まれ。管弦楽、吹奏楽からピアノ曲までその活動は幅広く、特にオペラを含むヴァリエティ豊かな声楽作品は抜群の人気を誇る。東京芸術大学作曲科首席卒業、同大学院修了。日本音楽コンクール作曲部門(管弦楽の部)入選。日本交響楽振興財団作曲賞入選。三菱UFJ信託音楽賞奨励賞受賞。主要作品に、オペラ「不思議の国のアリス」、ピアノ・コンチェルト、室内楽「ねじれていく風景」、吹奏楽「ゴシック」、合唱組曲「方舟」、歌曲集「秋の瞳」他。今までに5回の作品個展を開催。出版多数、CDに「管弦楽作品集～呼吸する大地」(オクタヴィア・レコード)、「室内楽作品集～もうひとつの世界」(ライヴノーツ/「レコード芸術」現代曲部門特選盤)ほか多数。



《うた》 **金子 堅治** (かねこ・けんじ) Vocal / KANEKO Kenji

東京生まれ。6歳よりピアノを学ぶ。声楽を藤村晃一、ピアノを秋月和子の両氏に師事。国立音楽大学声楽科(テノール専攻)に進み田島好一氏に師事。バロック作品のほか、シューベルト、シューマンを中心にドイツリートを学ぶ。会津大学短期大学部社会福祉学科では11年に渡り教壇に立つ。合唱の指導にも定評があり2003年よりおおるりコーラスの指導を続けている。2018年にバロック作品によるソロリサイタル(伴奏江川龍二氏)を開催し演奏活動を再開。同年『オール木下牧子作品による新しい日本歌曲の演奏会』のプロジェクトを開始し、2019年に「第1回～へびとりのうた」を開催。2020年には「第2回～いちばんすきなひとに」の無観客収録を行う。郡山女子大学短期大学部非常勤講師。



《ピアノ》 **金子 理恵** (かねこ・りえ) Piano / KANEKO Rie

埼玉生まれ。4歳よりピアノを学ぶ。東京家政大学附属中学・高校を経て玉川大学文学部英米文学科卒業。さらに同大学教育学部教育学科(幼児教育専攻)に学び、幼稚園教諭免許を取得。幼稚園勤務を経て、現在は自宅音楽教室にて幼児・児童への音楽指導を行うほか、合唱の伴奏を中心に活動。歌曲伴奏にも本格的に取り組み、オール木下牧子作品による『新しい日本歌曲の演奏会』ではシリーズ全般にわたりピアノ伴奏を務める。また所属する『木の実シアター』では、幼稚園・保育園・福祉施設において長年にわたり音楽ボランティアの活動を行なっている。

